2

4

ICH Q9(R1) Quality Risk Management -Step 2 Legal Notice 法令上の注意事項 (1/2). This presentation is protected by copyright and may, with the exception of the ICH Quality Risk Management, ICH Q9(R1) logo, be used, reproduced, incorporated into other works, adapted, modified, translated or distributed under a public license provided that ICH's copyright in the 品質リスクマネジメント、ICHQ9(R1) presentation is acknowledged at all times. In case of any adaption, modification or translation of the presentation, reasonable steps must be taken to clearly label, Step 2 document – to be released for comments demarcate or otherwise identify that changes were made to or based on the Step 2 document - コメント受付用のリリース original presentation. Any impression that the adaption, modification or translation of the original presentation is endorsed or sponsored by the ICH must be avoided. 26 November 2021 このプレゼンテーションは著作権により保護されており、ICHのロゴを除き、 ICHの著作権を常に認めることを条件に、パブリックライセンスの下で使用、複 International Council for Harmonisation of Technical Requirements for Pharmaceuticals for Human Use 製、他の著作物への組み込み、適合、修正、翻訳、配布することができます。 医蕊品提制調和国際会議 るとの印象を与えないようにしなければならない。 この対訳資料は、ファルマソリューションズ(株)内での勉強会用資料として作成したものです。訳文は社内討議の参考用に作成 したものです。なお、この訳文に対する責任は、当社が負うものではありません。 (2022年2月9日 対訳作成) 2

ICH Q9(R1) Quality Risk Management -Step 2

Legal Notice 法令上の注意事項 (2/2)

• The presentation is provided "as is" without warranty of any kind. In no event shall the ICH or the authors of the original presentation be liable for any claim, damages or other liability arising from the use of the presentation.

本プレゼンテーションは、いかなる種類の保証もなく「そのまま(as is)」提供している。いかなる場合においても、ICHまたはオリジナル プレゼンテーションの著者は、このプレゼンテーションの使用から生じ るいかなるクレーム、損害またはその他の責任も負わない。

 The above-mentioned permissions do not apply to content supplied by third parties. Therefore, for documents where the copyright vests in a third party, permission for reproduction must be obtained from this copyright holder. 上記の許可は、第三者から提供された内容については、適用されない。

```
したがって、第三者に著作権が帰属する文書については、当該著作権者
から転載の許諾を得る必要がある。
```

この対訳資料は、ファルマソリューションズ(株)の社内の勉強会用資料として作成したものです。

3

このプレゼンテーションの適合、修正または翻訳の場合、オリジナルのプレゼン テーションに変更が加えられたこと、またはそれに基づくことを明確に表示、区 分けまたはその他の方法で識別するための合理的な措置を講じる必要がある。ま た、原著論文の組み込み、変更、翻訳が、ICHによって承認または後援されてい この対訳資料は、ファルマソリューションズ(株)の社内の勉強会用資料として作成したものです。 ICH Q9(R1) Quality Risk Management -Step 2

Background 背景 (1/1)

- This document has been signed off as a Step 2 document (18 November 2021) to be issued by the ICH Regulatory Members for public consultation
- この文書は、ICH規制委員会が公開協議のために発行するステップ2文書 (2021年11月18日)として署名されている
- This document was developed based on a Concept Paper (approved 13 November 2020) and a Business Plan (approved 26 October 2020)
- 本書は、コンセプト・ペーパー(2020年11月13日承認)、及びビジネスプラ ン(2020年10月26日承認)に基づき作成されたものである
- Anticipating finalization as a Step 4 document to be implemented in the local regional regulatory system: September 2022
- 各地域の規制制度に導入するためのステップ4文書として最終化することを想定 している: 2022年9月(想定時期)

この対訳資料は、ファルマソリューションズ(株)の社内の勉強会用資料として作成したものです。

Key Principles 主要な原則 (1/7)

- The ICH Q9 Guideline has been revised to address the following:
- 以下の事項に対応するために、ICH Q9 ガイドラインを改定した:
 - The QRM principles and framework of ICH Q9 have been instrumental in introducing QRM approaches to both industry and regulators. However, the benefits of QRM, as envisaged by ICH Q9, have not yet been fully realized.
 - ・ ICH Q9 の QRM 原則と枠組みは、産業界と規制当局の双方に QRM アプローチを導入する上で有用であった。しかし、ICH Q9 が想定している QRM の利点は、まだ十分に実現されていない。

この対訳資料は、ファルマソリューションズ(株)の社内の勉強会用資料として作成したものです。

5

ICH Q9(R1) Quality Risk Management – Step 2

Key Principles 主要な原則 (3/6)

 Guidance has been developed for each of these four areas; this new guidance has been inserted into various chapters and annexes of the current guideline.

(訳注:前のスライドの) それら4つの分野の各々について、この新しいス ライドが開発されている; この新しいガイダンス(訳注:の文言は)は、 現行のガイドラインの様々な章や、付属書に挿入されている。

 The new guidance will be supported by the development of official ICH training materials – these materials will include case studies to help illustrate the key points in the guidance.

この新しいガイダンス(訳注:の文言は)は、ICH公式トレーニング教材の 開発によって支援を受けている。この教材には、ガイダンスのキーポイ ントを説明するのに役立つ事例研究が含まれる予定である。

この対訳資料は、ファルマソリューションズ(株)の社内の勉強会用資料として作成したものです。



6

5



Key Principles cont'd 主要な原則 (5/6)

 Hazard Identification: The revision has provided the opportunity to change the current 'Risk Identification' terminology in ICH Q9 to the term 'Hazard Identification'. ハザード・アイデンティフィケーション (ハザードの特定): 今回の改定で、 ICH Q9の「リスク同定」の用語を「ハザードの特定」に変更する機会を得た。

This change in terminology brings the guideline more in line with the current definition of Risk Assessment in ICH Q9, which makes reference to the identification of hazards, not the identification of risks.

用語のこの変更は、本ガイドラインを、リスクの特定ではなく、「ハザードの特定 (the identification of hazards)」として言及するICH Q9の現行のリスクアセスメ ントの定義と、より一致するものとなる。

この対訳資料は、ファルマソリューションズ(株)の社内の勉強会用資料として作成したものです。

9

ICH Q9(R1) Quality Risk Management – Step 2

Key Principles cont'd 主要な原則 (6/6)

- Hazard Identification is the first step in Risk Assessment. Risks can then be analysed and evaluated based on the harms associated with the identified hazards. ハザードの特定は、リスクアセスメントの最初のステップである。リスクは、 その後に、特定されたハザード(identified hazards) (harms)に基づいて分析・評価することができる。
 - This change will help readers better understand the schematic of a QRM process which is set out in Figure 1 of the current guideline; this currently refers to Risk Identification instead of Hazard Identification.
 この変更は、現行ガイドラインの図1に示されているQRM プロセスの 概略を読者がより良く理解するのに役立つ。;
 現在は「ハザードの特定」ではなく「リスクの特定」と表記している。
 この対釈覚料は、ファルマソリューションズ(株)の社内の勉強会用資料として作成したものです。



10



ICH Q9(R1) Quality Risk Management -Step 2 **Guideline Objectives – Subjectivity in QRM** ガイドラインの目的- ORMにおける主観性 (2/2) It stated that subjectivity in QRM can lead to varying levels of effectiveness in the management of risks. ORMにおける主観性は、リスクマネジメントの有効性のレベルを変化さ せる可能性があると述べている。 It indicated that, while subjectivity cannot be completely eliminated from risk assessment and QRM activities, it may be controlled using well recognised strategies, including addressing bias and behavioural factors. リスクアセスメント及び QRM 活動から主観性を完全に排除することはできな いが、<mark>バイアスや行動的要因への対応を含め、十分に認識された戦略を用いて、</mark> 主観性をコントロールするこ とができることを示した。 • The above points were the basis of the new text that was developed for the revised guideline in this area. 上記の指摘は、この分野のガイドライン改訂のために作成された新しい文

章の基礎とした。 この対象資料は、ファルマソリューションズ(株)の社内の勉強会用資料として作成したものです。

13

ICH Q9(R1) Quality Risk Management – Step 2

Guideline Objectives – Product Availability Risks ガイドラインの目的- 製品入手のリスク (2/3)

It stated that ICH Q9 already addresses product availability issues, as its definition of harm includes damage from a 'loss of product availability'. Addressing lifecycle risks to manufacturing reliability and quality assurance is the foundation for supply predictability.
 ICH Q9 の危害(Harm)の定義には「製品供給力の喪失」('loss of product availability')による損害が含まれているため、製品供給力の問題には既に対処していると述べている。製造の信頼性と品質保証に対するライフサイクルリスクに対処することは、供給予測可能性の基礎となる。

この対訳資料は、ファルマソリューションズ(株)の社内の勉強会用資料として作成したものです。

ICH Q9(R1) Quality Risk Management -Step 2 Guideline Objectives - Product Availability Risks ガイドラインの目的- 製品入手のリスク (1/3) • The Concept Paper for this revision work outlined why Product Availability Risks were to be addressed: 今回の改訂作業のコンセプトペーパーでは、なぜ製品入手のリスクを取り 上げるのかについて概説した。 • It indicated that, while ICH Q9 is not a supply chain guideline,

 It indicated that, while ICH Q9 is not a supply chain guideline, quality / manufacturing issues that impact the supply chain and product availability can present risks to patients, and managing these risks is important.

ICH Q9はサプライチェーンのガイドラインではないが、サプライ チェーンや製品の入手可能性に影響を与える品質/製造上の問題は、患 者にリスクをもたらす可能性があり、これらのリスクを管理することが 重要であることを示したものであった。

この対訳資料は、ファルマソリューションズ(株)の社内の勉強会用資料として作成したものです。 14

14

13

15

ICH Q9(R1) Quality Risk Management – Step 2

Guideline Objectives – Product Availability Risks ガイドラインの目的- 製品入手のリスク (3/3)

 It stated that an increased emphasis on this would be beneficial, whilst recognising the need for flexibility in how much formality is applied in relation to risk-based drug shortage prevention and mitigation activities.

リスクベースの医薬品不足の防止・緩和活動に関連して、どの程度まで形 式的なものを適用するかについて、柔軟性が必要であることを認識しつつ、 この点をより重視することが有益であると述べている。

• The above points were the basis of the new text that was developed for the revised guideline in this area.

以上の点を踏まえて、この分野のガイドライン改定のための新たなテキ ストが作成された。

この対訳資料は、ファルマソリューションズ(株)の社内の勉強会用資料として作成したものです。 16

<mark>(訳注)</mark> 次のスライドの "<mark>Formality</mark>"の訳語について

このスライド以降で"Formality"の用語がかなり見られる。日本語での該当する概念が 不明であるので、この対訳文では音訳「フォーマリティ」を使用する。 使われている文章の全体的な感じは、「手続き、形式、あるは書式の規則に対して、各 リスクアセスなどを、どの位まで正式に行うか?」ということのようである。 ちなみに、この用語の意味をWebで調べたところ、下記のような記載があった:

Formality: 形式にこだわること、形式尊重、堅苦しさ、形式的行為、(内容のない)形だけの行為

 A formality is something that follows traditional rules. Even though you knew your request for time off at work would be approved, you still went through the formality of filling out all the required paperwork. (フォーマリティとは、従来の規則に従ったものです。職場での休暇申請が承認され るとわかっていても、あなたは必要な書類をすべて記入するという形式的な手続きをとりました。)

 Formality also means to align with customs or etiquette. In this way, a formality is often something that's more symbolic than necessary. For example, when a big group sits down to eat dinner together, no one starts eating until everyone is served. That formality of dining etiquette is a sign of good manners and consideration for others. If you're British, a formality of your culture is to curtsy or bow when you meet the Queen. (フォーマティとは、習慣やエチケットに沿うという 意味もあります。このように、形式的なものというのは、必要以上に象徴的なものであることが多いので す。例えば、大人数で座って夕食を食べるとき、全員が食べ終わるまで誰も食べ始めない。あの食事のエ チケットの形式は、マナーや他人への配慮の表れなのです。もしあなたがイギリス人なら、女王に会った ときにお辞儀をするのが、あなたたちの文化の形式です。)

17

ICH Q9(R1) Quality Risk Management – Step 2

Guideline Objectives – Formality in QRM ガイドラインの目的 - QRMにおけるフォーマリティな大きさ (2/3)

 It indicated that there has been significant confusion and uncertainty as to what constitutes formality in QRM work, and how it would be useful to clarify what is expected in terms of formality.

「QRM業務におけるフォーマリティを、何で構成するかについて大きな混乱と不 確実性がある」こと、そして「フォーマリティという観点から、何が期待されて いるかを明確にすることが有用である」ことを指摘した。

 It suggested that there is flexibility in how much formality may be applied in relation to QRM activities, while emphasizing that robust risk management should always be the overarching goal of QRM.

QRM 活動に関して、どの程度の形式性を適用するかについては柔軟性があることを示唆する一方で、QRM の包括的な目標 (overarching goal) は常に強固なリスク管理であるべきであることを、強 調している。

この対訳資料は、ファルマソリューションズ(株)の社内の勉強会用資料として作成したものです。

ICH Q9(R1) Quality Risk Management – Step 2

Guideline Objectives – Formality in QRM ガイドラインの目的 - QRMにおけるフォーマリティ (1/3)

 The Concept Paper for this revision work outlined why Formality in QRM was to be addressed:
 今回の改定作業のコンセプトペーパーでは、なぜQRMにおける

フォーマリティを取り上げるのかについて、概説している。

 It referred to a lack of understanding as to what constitutes formality in QRM, and how this area has the potential to be further developed to lead to a more effective application of QRM principles.

QRM におけるフォーマリティとは何かについての理解不足と、QRM の原則 をより効果的に適用するために、この分野をさらに発展させる可能性がある ことについて言及している。

この対訳資料は、ファルマソリューションズ(株)の社内の勉強会用資料として作成したものです。 18

18

ICH Q9(R1) Quality Risk Management – Step 2

Guideline Objectives – Formality in QRM ガイドラインの目的 - QRMにおけるフォーマリティ(3/3)

 The above points were the basis of the new text that was developed for the revised guideline in this area. 以上の諸点が、新たなテキストの基礎となっており、それは、 この分野での改定した指針のために制定されたものである。

ICH Q9(R1) Quality Risk Management -Step 2 Guideline Objectives - Risk-based Decision Making ガイドラインの目的 - リスクベースの意思決定 (1/3) The Concept Paper for this revision work outlined why **Risk-based Decision Making was to be addressed:** 今回の改定作業のConcept Paperでは、なぜリスクベースの意思決定 (Risk-based Decision Making)を取り上げるのか、その概要を説明した。 It referred to a lack of clarity on risk-based decision-making and on what good risk-based decision making actually means, how QRM may improve decision-making, and how risk-based decisions might be achieved. リスクベースの意思決定、優れたリスクベースの意思決定が実際に何を意 味するのか、QRM がどのように意思決定を改善するのか、リスクベースの 意思決定をどのように達成するのかが明確でないことに言及している。 この対訳資料は、ファルマソリューションズ(株)の社内の勉強会用資料として作成したものです。 21

21

ICH Qo(Rt) Quality Risk Management – Step 2 Guideline Objectives – Risk-based Decision Making ガイドラインの目的 - リスクベースの意思決定 (3/3) • The above points were the basis of the new text that was developed for the revised guideline in this area. 以上の点を踏まえて、本分野のガイドライン改定のための 新しいテキストが作成された。 23 ICH Q9(R1) Quality Risk Management – Step 2

Guideline Objectives - Risk-based Decision Making ガイドラインの目的 - リスクベースの意思決定 (2/3)

- It referred to peer-reviewed research in this area from other fields, but how the level of visibility (and uptake) of that research within the pharmaceutical industry may be improved.
 この分野の他分野の査読付き研究について言及しているが、製薬業界における その研究の認知度(および取り込み)をどのように改善することができるのかに ついて言及している。
- It proposed addressing the expected benefits of investing in risk-based decision-making activities.
 リスクベースの意思決定活動に投資することで、期待される利益について 言及することを提案した。

この対訳資料は、ファルマソリューションズ(株)の社内の勉強会用資料として作成したものです。

22

22

ICH Q9(R1) Quality Risk Management – Step 2

Guideline Objectives ガイドラインの目的 (1/4)

 Scope: The scope of the revised Guideline is unchanged from the current version of ICH Q9. This reads as follows: 適用範囲: この改定したガイドラインの適用範囲は、現行の ICH Q9 から

変更しない。 これは以下のように読み替える。

"This guideline provides principles and examples of tools for quality risk management that can be applied to different aspects of pharmaceutical quality. These aspects include development, manufacturing, distribution, and the inspection and submission/review processes throughout the lifecycle of drug substances, drug (medicinal) products, biological and biotechnological products (including the use of raw materials, solvents, excipients, packaging and labeling materials in drug (medicinal) products, biological and biotechnological products)."

"このガイドラインは、医薬品の品質の様々な側面に適用可能な品質リスクマネジメント の原則とツールの例を提供する。これらの側面には、原薬、医薬品、バイオ製品および バイオテクノロジー製品(医薬品、バイオ及びバイオテクノロジー製品における原材料、 溶媒、賦形剤、包装・表示材料の使用を含む)のライフサイクルを通じた開発、製造、流 通、検査及び申請・審査プロセスが含まれる。"

この対訳資料は、ファルマソリューションズ(株)の社内の勉強会用資料として作成したものです。 24

26



25

ICH Q9(R1) Quality Risk Management -Step 2

Guideline Objectives ガイドラインの目的 (4/4)

- If manufacturing and supply chain processes are designed and validated in a manner that adequately reflects the QRM principles, it is reasonable to expect that such problems could decrease. もし製造及びサプライチェーンのプロセスが、ORM の原則を適切 に反映した形で設計され、バリデートされれば、そのような問題は 減少すると考えるのが妥当であろう。
- Other potential benefits are addressed in Annex 1 of the ICH Q9(R1) Concept Paper of 13 November 2020. その他の潜在的な利点については、2020年11月13日のICH 09(R1) コンセプトペーパーの附属書1に記載されている。

この対訳資料は、ファルマソリューションズ(株)の社内の勉強会用資料として作成したものです。 27

ICH Q9(R1) Quality Risk Management -Step 2 **Table of Contents** 日次 (1/2) The table of contents of the revised Guideline remains largely unchanged: 改定後のガイドラインの目次に大きな変更はない。 o Two new sub-sections have been added to Chapter 5 (Risk Management Methodology): 第5章(リスクマネジメント手法)に2つのサブセクションが 追加された。 - 5.1: Formality in Quality Risk Management 品質リスクマネジメントの形式

- 5.2: Risk-based Decision Making
- リスクベースの意思決定

```
この対訳資料は、ファルマソリューションズ(株)の社内の勉強会用資料として作成したものです。
                                                 28
```

ICH Q9(R1) Quality Risk Management -Step 2 Table of Contents 目 次 (2/2)• The title of Annex 1 – 'Risk Management Methods and Tools' - has been renamed 'Quality Risk management Methods and Tools'. 付属書1のタイトル「リスクマネジメントの方法とツール」は、「品質リスク マネジメントの方法とツール」に変更された。 • A new sub-section II.9 has been added into Annex II (Quality Risk Management as part of Integrated Quality Management). The new sub-section is titled 'Quality Risk Management as Part of Supply Chain Control'. <mark>新しいサブセクションⅡ.9</mark>が、附属書Ⅱ(統合的品質マネジメントの一環として の品質リスクマネジメント)に、追加されている。新しいサブセクションのタイ トルは「サプライチェーン管理の一環としての品質リスクマネジメント」である この対訳資料は、ファルマソリューションズ(株)の社内の勉強会用資料として作成したものです。 29

29





30

ICH Q9(R1) Quality Risk Management – Step 2 Summary of Guideline Content ガイドラインの内容の要約 (1/16)

In relation to Product Availability Risks: 製品入手リスクに関して

 ICH Q9 already addresses product availability issues, as its definition of harm includes damage from a 'loss of product availability'; this point is highlighted in the revised guideline, where the first QRM principle in ICH Q9 is revised to add the Note in red as shown below:

製品入手リスクに関して : 危害の定義に「製品の入手可能性の損失」による損害が含まれるため、ICH Q9 は、すでに製品の入手可能性の問題を扱っている;この点は、改定後のガイドラインでも強調されており、ICH Q9 の当初の QRM 原則は、注を追加(以下のように赤で示した)する形で改定されている。

 "The evaluation of the risk to quality should be based on scientific knowledge and ultimately link to the protection of the patient. (Note: Risk to quality includes situations where product availability may be impacted, leading to potential patient harm.)"

「品質に対するリスクの評価は、科学的知見に基づき、最終的には患者の保護につ ながるものであるべきである。(注:品質に対するリスクには、製品の入手可能性に 影響を及ぼして、潜在的な患者への危害につながる可能性がある状況を含む)"

この対訳資料は、ファルマソリューションズ(株)の社内の勉強会用資料として作成したものです。 32



この対訳資料は、ファルマソリューションズ(株)の社内の勉強会用資料として作成したものです。

33

ICH Q9(R1) Quality Risk Management -Step 2

Summary of Guideline Content ガイドラインの内容の要約 (4/16)

In relation to Product Availability Risks: 製品入手リスクに関して 続き

 The revised Guideline addresses several factors that can affect supply reliability, and hence product availability, and it provides guidance on each of those. The factors include the following: 改定したガイドラインでは、供給の信頼性、ひいては製品の供給力に影響を

与えうるいくつかの要因を取り上げており、そして幾つかの因子に言及して おり、それぞれについてガイダンスを示している。その要因とは以下の通り です:

- Manufacturing Process Variation and State of Control (internal and external) 製造工程のバラツキと管理状態(内部および外部)
- Manufacturing Facilities 製造設備
- Oversight of Outsourced Activities and Suppliers 外部委託活動およびサプライヤーの監視

この対訳資料は、ファルマソリューションズ(株)の社内の勉強会用資料として作成したものです。



34

ICH Q9(R1) Quality Risk Management -Step 2

Summary of Guideline Content ガイドラインの内容の要約 (5/16)

- In relation to Formality in QRM: QRMにおけるフォーマリティに関して
- The revised Guideline addresses what constitutes formality in QRM and it outlines how varying degrees of formality may be applied during QRM activities, including when making risk-based decisions. In this way, formality can be considered a continuum (or spectrum), ranging from low to high.

この改定したガイドラインでは、ORM におけるフォーマリティとは 何かについて言及し、そしてリスクに基づく意思決定を含む QRM 活 動において、様々な程度の形式をフォーマリティできることを概説し ている。このような方法で、フォーマリティは、低いものから高いも のまでの連続体(またはスペクトル)と考えることができる。

> この対訳資料は、ファルマソリューションズ(株)の社内の勉強会用資料として作成したものです。 36

Summary of Guideline Content ガイドラインの内容の要約(6/16)

(In relation to Formality in QRM: QRMにおけるフォーマリティに関して (続き))

- It addresses the factors that may be considered when determining how much formality to apply to a given QRM activity.
 本ガイドラインは、ある QRM 活動に対してどの程度のフォーマリティを適用 するかを決定する際に、考慮される可能性のある要因を取り上げている。
- It provides guidance on the characteristics of higher and lower levels of formality. フォーマリティの高いレベル及び低いレベルの特徴に関するガイダンスを提供 している。
- It indicates that there is flexibility in how much formality may be applied in relation to QRM activities, emphasising that the robust management of risk should always be the overarching goal of QRM.

QRM 活動に関して、どの程度のフォーマリティを適用するかについては柔軟性が あることを示し、リスクの頑健な管理が常に QRM の包括的な目標であるべきで あることを強調している。

この対訳資料は、ファルマソリューションズ(株)の社内の勉強会用資料として作成したものです。 37

37

ICH Q9(R1) Quality Risk Management – Step 2

Summary of Guideline Content ガイドラインの内容の要約 (8/16)

(In relation to Risk-based Decision Making: リスクベースの意思決定に関連して 続き)

- The revised Guideline provides guidance on how there are different processes that may be used to make risk-based decisions, and how these are directly related to the level of formality that is applied during the QRM process. 改定したガイドラインは、「リスクベースの意思決定を行うために使用さ れる様々なプロセスがある」こと、そして「それらがQRMプロセスにおい て適用される形式のレベルとどのように直接関係しているか」についての ガイダンスを提供している。
- It addresses how there can be varying degrees of structure with regard to approaches for risk-based decision making, and guidance on such approaches is provided.

リスクベースの意思決定のためのアプローチに関して、どのように様々な程度の 構造があり得るかを取り上げ、そのようなアプローチに関するガイダンスを提供し ている。

この対訳資料は、ファルマソリューションズ(株)の社内の勉強会用資料として作成したものです。 39



この対訳資料は、ファルマソリューションズ(株)の社内の勉強会用資料として作成したものです。 38

38

ICH Q9(R1) Quality Risk Management – Step 2

Summary of Guideline Content ガイドラインの内容の要約 (9/16)

(In relation to Risk-based Decision Making: <mark>リスクペースの意思決定に関連して</mark> 続き)

- As noted earlier, there is no change made to the current guidance in ICH Q9 on Risk Review.
 前述のとおり、ICH Q9のリスクレビューに関する現行のガイ ダンスに変更はない。
- The new training materials that will be developed to support the revised Guideline will have content in relation to Risk Review, in line with the Concept Paper, which stated the following:
 改定したガイドラインをサポートするために開発される新しいトレーニング資料は、コンセプトペーパーに沿ったリスクレビューに関連する内容を持つことになる。

この対訳資料は、ファルマソリューションズ(株)の社内の勉強会用資料として作成したものです。 40

Summary of Guideline Content ガイドラインの内容の要約(10/16)

(In relation to Risk-based Decision Making: <mark>リスクペースの意思決定に関連して</mark> 続き)

 "This work could provide additional clarity on the expectations relating to keeping risk assessments current and on the implementation of risk review activities based on lifecycle manufacturing performance and quality feedback. Risk review ties in with the concept of continuous improvement as expressed in ICH Q10 and in the lifecycle management guidelines (ICH Q12/Q14), and it could be addressed by developing additional training materials on this topic."

「この作業は、リスクアセスメントを最新の状態に保つこと、及びライフサイク ルの製造性能(manufacturing performance)と品質フィードバックに基づくリスク レビュー活動の実施に関する期待事項をさらに明確にすることができるだろう。 リスクレビューは、ICH Q10やライフサイクルマネジメントのガイドライン (ICH Q12/Q14)に示される継続的改善の概念と結びついており、このテーマに 関する追加の研修資料を開発することで対処できるだろう。」と述べている。

この対訳資料は、ファルマソリューションズ(株)の社内の勉強会用資料として作成したものです。

41

ICH Q9(R1) Quality Risk Management -Step 2 Summary of Guideline Content - There are four cross-references in ICH Q9(R1) to ICH Q10 ICH Q9(R1)には、ICH Q10に対する4つの相互参照がある (12/16) The first is in the new text that relates to Subjectivity in QRM. It states: 第一は、ORMにおける主観性に関連する新しい文章である。 それには次のように書かれている: 'While subjectivity cannot be completely eliminated from quality risk management activities, it may be controlled by addressing bias, the proper use of quality risk management tools and maximising the use of relevant data and sources of knowledge (see ICH Q10, Section 1.6.1).' 「品質リスクマネジメント活動から主観性を完全に排除することはできないが、 偏り(バイアス)に対処し、品質リスクマネジメントのツールを適切に使用 し、関連するデータ及び知識源(ナレッジ)を最大限に活用する ことにより、 主観性を制御することができる(ICH Q10、1.6.1項参照)」。 この対訳資料は、ファルマソリューションズ(株)の社内の勉強会用資料として作成したものです。 43



42





45



ICH Q9(R1) Quality Risk Management -Step 2
Summary of Guideline Content - There are four cross-references in ICH Q9(R1) to ICH Q10 ICH Q9(R1)には、ICH Q10に対する4つの相互参照がある (15/16) • The fourth cross-reference is in the new Annex II.9, titled 'Quality Risk Management as Part of Supply Chain Control'. In relation to supplier oversight and relationships, it states:
 四番目の相互参照は、「サプライチェーンコントロールの一環としての 品質リスクマネジメント」と題された新しい付属書II.9に記載されてい ます。供給者の監督と関係に関連して、次のように述べられている。 'To enhance review and monitoring activities (see Section 2.7 of ICH Q10) when substantial variability is identified in the quality and safety of supplied materials or in the services provided.'
「供給される原材料の品質及び安全性又は提供されるサービスにおいて 実質的な変動が確認された場合に、レビュー及びモニタリング活動 (ICH Q10の2.7項を参照)を強化すること」 この対訳資料は、ファルマンリューションズ(株)の社内の勉強会用資料として作成したものです。 46

46

ICH Q9(R1) Quality Risk Management – Step 2

Considerations 考察 (1/4)

 It is considered that the new guidance in ICH Q9(R1) supports the existing guidance in ICH Q8 and Q10, as well as ICH Q12 and other Quality Guidelines. Those other Guidelines all rely, to some extent, on the application of quality risk management principles.

ICH Q9(R1)の新しいガイダンスは、ICH Q12は勿論のこと、ICH Q8及びQ10そ して、その他の品質に関するガイドラインの、既存のガイダンスをサポートする と考えられる。それらの他のガイドラインはすべて、品質リスクマネジメントの 原則の適用にある程度依存している。

• This revision of ICH Q9 is intended to result in more valueadding and effective approaches to quality risk management.

このICH Q9の改定は、品質リスクマネジメントに対して、より付加価値の高い効果的なアプローチをもたらすことを意図している。

この対訳資料は、ファルマソリューションズ(株)の社内の勉強会用資料として作成したものです。 48





• For any questions please contact the ICH Secretariat:

admin@ich.org

International Council for Harmonisation of Technical Requirements for Pharmaceuticals for Human Use

Contact